

## 令和4年度 玉野市工業振興会議 概要

日 時 令和5年2月3日（金）14：00～16：00  
場 所 産業振興ビル 3階 展示・会議室  
出席者 別紙名簿のとおり  
概 要 以下のとおり（進行 津田課長）

1. 開会
2. 大倉部長挨拶
3. 新委員紹介

津田課長

ありがとうございました。続きまして新任委員の紹介をさせていただきます。今回から委員となられた玉野商工会議所の会頭の前田和郎さま。

前田会頭

前田と言います。商工会議所の会頭に11月1日から就任しております。また三井E&Sの専務理事という役も併せております。まだまだ分からないことも多いですけど勉強含めていろんな意見を私のほうから分かる限り発信できたらと思っています。よろしく願いいたします。

津田課長

ありがとうございます。今回新任委員の方も、お忙しい中お集まりいただき、今回全員参加されていますので、短い時間で恐縮ですが一言ずつ順に自己紹介をしていただければと思います。

磯野さん

三井E&S建設業安全衛生組合の磯野と申します。仕事は玉野土建株式会社で建設業をやらせていただいております。少しでも皆と話をして良くなればと思います。意見のほう言わせていただこうと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

宮原さん

玉野鉄工協議会、三井造船の協力企業の団体で任意団体です。私どもは株式会社宮原製作所です。協力企業でやっております。よろしく願いいたします。

藤原さん

玉原鉄工業共同組合の藤原でございます。ここに書いておるとおり、令和3年の5月の総会で理事長に就任しました。コロナ禍の中、どさくさ紛れに理事長になりました。コロナが終わるまでの任期かという、まあどんなになるかなと思っておりますが、とりあえず今のところは順調に組合運営が進んでいるというところ。今後ともよろしく願いいたします。

船倉先生

岡山大学の船倉と申します。昨年の5月に中国産業経済局から岡山大学に出向という形で着任しております。まだまだ若輩者ですけれど入社して10数年間、地域経済の事ばかりを考えてきております。玉野市さまのご活躍に協力できるように頑張りますので、よろしく願いいたします。

吉川さん

岡山県工業技術センターで次長をしております、吉川と言います。よろしく願いいたします。業務としては、こちらでいうと産業試験センターさんと取組んでおります。今日はちょっとあれかもしれませんが、パンフレットをお持ちさせていただいておりますので、また時間があるときに見ていただければと思います。産業試験センターさんに無い機械もいくつかあると思いますので、産業試験センターさんに駄目だと言われたようなことがありましたらお電話をいただければと思います。今日はよろしく願いいたします。

石部さん

岡山県産業振興財団の石部です。どうぞよろしく願いいたします。11月の会議を急にキャンセルしてしまって申し訳ありませんでした。私、研究開発支援課のほうをみておりまして、パワーXのような魅力的な企業が玉野にはありますし、三井E&Sさんのようにこれからグリーン成長戦略を担うような企業がありますので、ぜひいろんな県内企業さんも含めて研究して発展させていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

山上さん

産業振興公社、このビルの運営をしております。あとは勤労者サービスセンターで各企業さんとかかわっております。コロナ等々、先行きが厳しい中で。ひとつ紹介をさせていただくのが、このビルも21歳になりましてそろそろリフレッシュが必要で、その資金を稼がなければということで悩ましいことがいっぱいありますが、産業振興、地域活性化に少しでも力添えが出来ればと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

大倉部長

玉野市産業振興部長の大倉です。私が所管しているのは商工観光課、農林水産課、競輪事業課でございます。なかなか時代が不透明な中厳しい世の中で、玉野市役所の中では旗振り

役として一生懸命働いて参りたい。皆様の様々な知見を拝借いたしまして常々引き続きよろしく願いいたします。

津田課長

改めまして玉野市商工観光課長の津田と申します。よろしく願いいたします。

藤原参事

同じく玉野市商工観光課の藤原と申します。今日はよろしく願いいたします。

柴田さん

玉野産業振興公社の柴田と申します。よろしく願いいたします。

高島さん

玉野商工会議所の高島と申します。よろしく願いいたします。

津田課長

以上、ご紹介とさせていただきます。

それでは、ここからの議事につきましては船倉会長に進行をお任せします。

船倉会長

それでは議事に先立ちまして、玉野市工業振興条例施行規則により本会議の開催には委員の皆様のうち過半数の出席が必要とされておりますけれども、この件を満たしていることをここにご報告申し上げます。それでは、議事にうつらせていただきます。

まず、玉野市工業振興に係る基本方針第三章の今後の取組方針に基づく各指標の状況。こちらにつきまして玉野市さまご説明をお願いいたします。

### **議事（１）「玉野市の工業振興に係る基本方針 第３章 今後の取り組み方針」に 基づく各指標の状況**

藤原参事

玉野市の第三章取組方針、各指標の状況について。経営基盤の強化の指標からの説明です。前回 11 月に 2 年目の実績の部分まで公表が出ていましたので、そちらまで紹介しております。今回 3 年目の実績通知がだいたい出てきたことでそちらの報告と傾向などを説明いたします。まず製造品出荷額。3 年目の実績については 3,017 億 4017 万円という数値となっている。これが令和 2 年分の工業出荷額というもので、3 年目の実績はその前の年に比べて減少という結果となっている。増減の波はあるが、造船の関係以外のところも全体的に減少しているというところ。他の自治体を見ても令和 2 年と元年の実績につきましては、全体

的に減少傾向。玉野市特有の要因もあるのかもしれないが、やはり造船の関係に引っ張られていることが大きいので、輸送用機械のところが落ち込みがありました。繊維工業については若干伸びているというところですが、全業種において減少傾向。次に経営革新計画の累計認定件数。こちらは、令和4年度12月末の時点での実績の報告になるが累計で7件。次に、先端設備等導入促進計画の累計の認定件数が昨年12月末までの実績が累計で47件。目標としていたのが40件だった。一昨年6月末までの目標値ではあったがそこから少しづつ伸びており、順調に推移している。なおこの計画の期間については、今年の6月24日まで現在計画期間を延長している。事業承継サポートコーディネーターの派遣件数は、昨年12月末までの実績で累計20件。事業承継の問題は、玉野市のみならず全国的にも話題になっているが、本市の場合、製造業・工業の関係よりも商業の分野で事業承継の不足という声や傾向が伺える。あとで申しますが、アンケートでも事業承継について深掘り調査できたらと思う。次に人材の確保・育成にとまなう指標。1つ目の、製造業に従事する従業員数についてですが、こちらも3年目の実績。具体的には令和2年の6,314人ということで、こちらも若干減少傾向。2つめの有功求人倍率について。こちらは令和4年度11月の時点ですが、1.6倍という状態で推移している。市内高校の卒業就職者数の市内の就職率について。こちらは令和3年度卒の数値が39.5%とでている。こちら以前説明しましたが、県立高校、市立高校、市内の全高校を含めて就職希望者の中で市内で就職した割合。こちらも若干減少傾向。減少傾向にありますが、インターンシップをはじめ地元就職促進を管理連携しているが、なかなかこの数値に表れていないというところ。マリン玉野産業フェアの中止も続いておりますので、こういった数値も踏まえまして、来年度以降の地元就職促進を一から考え直す必要があると考えている。新たな産業の創出について、1つ目の製造業の事業所数。こちらの令和3年度の実績が130事業所ということで、こちらも減少となっている。製造業でも、金属加工のみならず全体的に減少している。2つめの玉野市企業情報データベースについて、令和4年度実績で48件。こちらも4年目で実績が少し減少しているが、主な原因としては、データベースをあげていた事業社さんの廃業があったり、造船関連の事業譲渡があったりしたために数が減ったと聞いている。この中で、企業訪問が制限されていることもあり、新規の掲載に繋がっていない現状があるが、今後少しずつ増加を目指していきたい。あとで話があると思うが、令和5年度は掲載内容のブラッシュアップも予定しているというので、そういったことで件数増加に繋がればと思う。指標についての全体の報告は以上だが、全体を通して事務局のほうで考えとか思っていることとして、工業統計、製造品出荷額は重要な指標ではあると考えているが、見ての通りどうしても数値の把握というのが今ですと令和2年の実績ということで、どうしても2～3年遅れということで把握に時差が生じている。前回の会議の時にも5か年計画をもっと短いスパンでということと3年に短縮しようという動きもある中で、それに併せてできるだけリアルタイムに把握できる指標というものの選定が必要ではないかと考えておりますが、現状でそれに適した公表できるような数表が思いついていないところ。3年のスパンに見直す際に合わせて、何ら

かのもうすこしリアルタイムの指標設定を模索できたらと考えている。以上事務局のほうからの説明です。

船倉会長

こういった統計資料は時間差があるのでタイムリーな指標は非常に大切と思う。  
次に、各団体の取組、今後の方針についてそれぞれ紹介をお願いします。

## (2) 各団体の取組・今後の方針について

商工会議所 高島さん 説明

それでは玉野商工会議所の取組と今後の方針について説明します。1、計画作成支援事業について。経営革新や経営計画作成等を支援し中小企業の発展・成長を支援する。経営革新計画と言うことで、当初通算 11 件、うち工業関係は 7 件。令和 4 年 12 月までは 3 件の認定をいただいている。玉野市の先端設備等導入計画ということで、当初通した申請は 16 件、令和 4 年は 4 件。今後も継続して支援をさせていただく。2、補助金支援ということで、各種補助金、支援金申請等の経営課題解決サポートをしている。小規模事業者持続化補助金という販促に関わるもので、一般型が令和 4 年は 20 件、うち工業関係は 3 件。被災型とかコロナ関係はメニュー自体がありません。ものづくり補助金は 1 件申請をした。事業再構築補助金は、令和 4 年に 10 件。今後も継続支援をする。3、事業承継サポートでアンケートを取った。診断件数が令和 4 年 20 件、工業関係は 6 件。コーディネーターの派遣企業数は、令和 4 年は 6 件、工業関係は 1 件。指標のほうは累計で 15 件となっているが、実績が 20 件。事業策定計画の企業数は、令和 4 年は 3 件、工業関係は 1 件。4、マル経支援。融資の推薦や政策金融公庫さんの制度の斡旋をしている。マル経融資ということで対象は小規模事業者、製造業は従業員が 20 名以下の事業所になってくるが、融資限度額が 2,000 万円、利率が 1.3%となっている。利子補給ということで最初の 6 ヶ月間は会議所のほうから利子補給をさせてもらっている。令和 4 年は 4 件、1,508 の利子補給をしている。新型コロナウイルスマル経というのもあり、新型コロナウイルス感染症により売上が減少した小規模事業社さんの資金繰りを支援する。融資限度額が別枠で 1,000 万円、利率が普通のマル経と同じで 1.3%。国や市から利子補給があり、当初 3 年間は実質無利子となっている。こちらの新型コロナウイルスマル経、現在も続いていて現在国の利子補給はないが、市の利子補給はあり実質 3 年間は無利子となっている。マル経の決定件数が令和 4 年 12 月末現在、16 件、工業関係は 10 件となっている。金額の決定額は、8,250 万円、工業関係は 3,550 万円となっている。コロナマル経の決定件数が、令和 4 年 12 月現在で 11 件、工業関係は 8 件となっている。決定額は 5,410 万円、工業関係は 3,180 万円となっている。なお商工会議所からの支援を受けて取組む小規模事業社さんの融資限度額が 7,200 万円となる制度もある。マル経融資の傾向だが、だんだん件数が下がってきているが、こちらは令和 2 年の 5 月に民間の銀行のゼロゼロ融資とかが始まっていて、民間の銀行の売り込みがたくさんあったとい

うことで、その反動がきているのではないかということで落ち込んでいる。5、定例のなんでも相談会について。弁護士さんや税理士さん等の専門家を呼んで毎月1回開催している。法律や税について令和4年12月末で10件、計画の策定とか補助金の申請とかで案件があった。今後も継続していく。6、新型コロナウイルス対策特別相談会について。中小企業診断士さんとか社会保険労務士さんとかに月曜と木曜日とか隔週とかで常駐していただいている。4月から12月までということで、業種的には建設業が20件、製造業は13件となっている。相談内容で一番多いのは、持続化補助金で64件。その次に事業再生補助金となっている。来年もこの制度があるので引き続き継続する。7、講習会等ということで、こちらは創業塾。令和4年はオンラインで2日間2時間の4コマを行っている。20名の参加があった。新入社員研修は14名の参加があった。新型コロナ対策各種補助金活用セミナーを3日間行っているが24名、工業関係は2名の参加があった。今話題のインボイスセミナーを2回行って、34名、工業関係は2名の参加があった。傾向としては、売上が一千万以下の事業社さん、消費税の免税事業社さんでインボイス制度の導入で廃業されるとか、雇用形態を変えられる方とか、事業をやめて雇用関係になる方が目立ってくる感じなので、個別対応していきたい。7、会議所の委員さんで組織されている工業振興委員会ということで、13名の方がおり情報交換とか協議を重ねている。令和4年11月に日本工業機械の見本市に視察に行っている。また人材確保ということで、派遣会社の活用とかそういったことの見聞交換もしている。またコロナの影響もあって、BCPの策定に努めるべく協議を重ねている。8、ザ・ビジネスモールへの企業登録への促進ということで、情報サイトへの登録を促している。参考資料として、参考資料の5～10ページに資料を入れている。ザ・ビジネスモールということで、商工会議所と商工会の運営する日本最大級のショー取引のサイトとなっていて、商工会議所の会員が28万社をつないでいる。商工会議所の会員企業同士が無料で自社のPRとかマッチングができる。時間や地域の制約を受けずに取引相手を探すことが出来るので、こういったところへの登録をお願いしている。9、貿易証明について。貿易関係の証明をするということで、証明数が80件ということで、主に中東、アジアでいうと中国とか。こういったところにコンプレッサーとか部品の輸出をするところの証明を行っている。エンジンの部品はこの中には入っていません。10、各種情報提供ということで、岡山商工会議所が実施している定期監督調査？とか岡山商工会議所と連携して調査結果の情報提供をホームページなどで行っている。11、各種要望活動を行い、商工技術者の支援を行う。以上が商工会議所の取組、方針となります。

#### 公社 柴田さん 説明

玉野産業振興公社です。1の研修・セミナーの開催について。職人塾の実施について。こちらは、平成18年度から基幹産業である造船業等における技術及び技能水準の維持向上を図ることを目的として研修を企画・実施しているもの。令和4年度の実績として、実施した研修は2件。受講生数延20名。うち女性受講者数が1名。求職者が1名。発足から18年

目になるが、令和5年度においてもそれぞれの分科会の研修を継続して実施する予定。これまでと同様女性を含めた地域企業の従業員さんだけでなく求職者の方も受入予定。具体的には、機械系であれば製図の基礎及び計測研修が5月31日から6月2日までと、JIS規格実施試験の合格を目指す溶接研修を9月30日から10月20日までの延8回。課題としては、お世話をさせていただいている分科会の企業さんの中でも、なかなか人手不足で職人塾の世話をするのがしんどくなっているという声がある。運営の仕方も今後変えていかなければならないかと思う。それから例年、受講生の確保に苦慮しているところがあり、基本的に研修が新任さんに対する研修が多いもので、ある程度経験を持たれた従業員さんを受け入れる研修も案としてあがっているので、令和5年度はそちらの実施に向けた準備も進めたい。新入社員教育の実施について。地域のものづくり企業の新入社員に対して研修を実施しているもので、令和4年度の実績として6社7名。令和5年度も講師としてベテラン在職者を活用して4月18日から20日までの3日間、実施予定。近々募集を開始しまして、3月15日までを募集期間として募集する予定。3の専門家派遣の支援について。こちらは、どちらかという側面的支援という形で、専門家派遣事業の情報提供とか、企業さんが有料の専門家派遣を活用された場合の費用負担の助成を行っている。実績としては、ここ5年間特段問合せ等なくゼロが続いている。こちらについては、今後、有料の専門家派遣を活用される企業さんが出てくる可能性がありますので制度そのものは残して続けたい。2の企業訪問及び相談について。企業を訪問して情報交換とか、こちらが持っている情報提供や意見交換等を行っているもの。令和2年度以降、新型コロナの影響も有りなかなか活発な企業訪問というのが憚られる状況となっている。こちら、コロナの状況等見ながら極力企業訪問件数を増やしていけるように企業さんの声を拾っていききたい。企業の福利厚生支援ですが、こちら平成11年度から継続してサービスセンター事業というのをやっております、昨年12月末現在で1,519名の会員さんがいる。うち製造業関連の企業の会員さんが、644名。1年ぐらい前と比較して微減で、ほぼ横這い。こちらにつきましても、新規雇用がなかなか厳しいという声もありますが、採用の際の差別化としてご活用いただけるように今後もサービスの向上を図りたい。3の企業情報データベース及び情報化支援について。こちらは、さきほど説明がありましたが、令和4年度について4件のマイナスが出ていて、48件になっている。目標としては5年間で100件の登録を目指していたので、なかなか厳しい数字ではあるが、令和5年度少しでも目標に近づけられるように件数の増加を図っていききたい。併せて、掲載しているデータの内容の見直しとか、最新の情報を載せていないとやはり意味が無いので、こちらのほうの情報メンテナンスもすすめていきたい。玉野市定住促進企業等の情報発信ですが、こちらは令和3年度から玉野市から委託を受けて「たまの企業ガイド」という冊子に載っている企業さんを訪問して、1社あたり3回のSNS(Twitter、Facebook、Instagram)で発信している。こちらについてフォロワー数が、今現在で120数件。なかなかフォロワー数が伸び悩んでいる。また投稿数が頻繁にあげられていないという反省というのがあります。こちらについても5年度、極力発信回数が増えるような努力もし

ながらすすめていきたい。最後にホームページの作成支援について。こちらは、ホームページのリニューアル等を検討されている企業がいたら市の補助金とかの紹介。ホームページに限らず、ステップアップ支援事業とか、現在も取り次ぎや申請フォロー等を行っている。4つめに産業振興公社のホームページの充実ですが、なかなか手がつけられていない案件です。企業さんが見やすい、また充実した情報が載せられるように更新していきたいと思っている。

石部さん

専門家派遣は、財団の専門家派遣事業の取組だと思うが、うちのほうもあまり積極的に専門家派遣はなくて、中小企業支援課のほうにいつている。なぜかというと、国のよろず支援拠点にいつている。玉野でも年に何回かよろず支援拠点の相談窓口があるので、多分そちらに流れている感じもします。専門家派遣の助成をするという形だと企業さんが使いにくいのでコーディネート機能で市内の企業さんが抱えている問題を見つけてこういったのを使ってはどうかと。おそらく全部は使わないという印象。

船倉会長

職人塾のことですが、講師側の人手不足ということですが、私がいろいろ見かけている中で、製造業の方の技能伝承が課題だが、一番手っ取り早いのが動画を作ること。動画を収録してそれを見てもらうというのが簡単な事例としてある。難しい技能の伝承というのは、なかなか動画だけでは伝わらないので、そういったところでVRゴーグルで目の動きを記録してそれを実体験としてやってもらうとか、そういった事例も徐々に出てきているので、そういったものも参考になれば。

藤原参事 説明

玉野市からですが、ボリュームがあるので傾向部分を重点絞ってお伝えします。

ステップアップ支援事業につきましては、人材育成、情報化、販路開拓の関係に取組む補助。令和4年12月末の実績について、withコロナに向けた取組ということで若干上向きになっているところ。特に人材育成については、コロナ禍で動けない分、技能検定や新しいセミナー受講をしていこうという事業社さんの傾向が見られた。ただ販路開拓については、まだ外出抑制だったり、Web開催ということもあって、リアル開催が少なかったということで減少傾向でした。魅力ある職場環境づくりということで、職場の従業員の方への職場環境の充実に関する費用を補助するもの。大きく分けて、社員の職場環境と女性の職場環境ということで、若干限度額等変えてある。実績については、去年今年と横這いではある。令和2年度からスタートして令和3年に若干落ち込んではいるが、こちらは2か年連続では補助を受けられないというところもあって、令和4年度の12月末現在では若干上向きになっている。例年はトイレの改修が多い傾向だったが、本年度においては女性の方の居住空間だっ

たり作業空間の改善に関する申請が多かった。趣旨に沿った活用の効果が出てきている。それから、雇用促進奨励金については本年度についてもゼロ件。融資関係については、全体的に市制度融資は、民間の金融機関のゼロゼロ融資の影響で活用が大きく減少しております。コロナの融資の返済が始まるという期間になっているので、今後の動向が気になるところ。なお、利子補給につきましては、今は基準金利、融資利率が横這いということで、利子補給については令和4年度については、ゼロということになっている。雇用対策について、マリソン玉野産業フェアが今年度中止。あと、インターンシップについては、コロナ禍ではあるが、商工高校の2年生を中心に活動をした。実績は106名の方が実習に参加。高校生オンライン合同企業勉強会、こちらは今年度初めての取組で3月15日の実施に向けて準備を進めている。内容としては、コロナ禍でDX化、IT化を視野に入れ、Zoomを使って高校と企業をつないで紹介をするもの。15社で枠を組んで募集をかけたところ、市内で20社の応募があり、今回、業種のバランスを取りながら15社に絞り込んで準備を進めている。こちらについては、今後、生徒さんだけではなく保護者の方への配信も視野に入れたいと考えていて、今年度は実験的にやってみるが、来年度以降、保護者向けの配信にも活用できるようにブラッシュアップしていきたい。その他として、先端設備導入計画について。生産性の高い設備に認定をして、税制支援を行うもの。こちら令和4年度の実績は、新規認定が19件ということで推移している。結構、皆様にご活用いただいているものと思う。国の制度が、令和4年6月24日が期間であったが、延長して今年の6月24日までとなっているが、国の制度が変わる動きもあることから、来年度以降もしかしたら制度が変更になる可能性が有るが、同様の措置が出来ることを期待している。たまのの定住促進については、登録制度ということで、市内の定住・若者の就職促進をする企業さんを認定して周知することで定着をはかるもので、こちらは各補助金の上限額などの上乗せ支援などがあるもの。実績について、令和4年度17件ということで横這い。たまのの企業ガイドについては、こちらは以前お配りした冊子で今年についても1,500部59社を掲載したものを作成中。今後、配布をしていく。公社さんに委託をしている企業紹介のSNSについて、紹介するページを追加したり、掲載希望のあった企業さんの企業PR動画をQRコードで掲載したり、少しずつブラッシュアップをしている。要望活動は、従来通りではあるが「海事産業の未来を共創する会」で全国の44自治体で国への要望活動を引き続き行っている。ここまでの今年度の基本的な事業概要です。この後は、コロナウイルスの関係において早急に支援するべきところで、緊急措置を講じているもの。令和3年度から引き続き、チャレンジ企業応援事業といって、国の4つの補助金、業態転換だったり、新規事業をする事業社さんの財政的な上乗せ支援と、申請を行う際のサポートを専門家の派遣による支援を行うもの。事業の受付を終了したところで、支援件数としては30件。1,400万円程度の支援金の獲得を支援した。専門家派遣も、会議所さんをとおしてとなるが47回12社の方にご活用いただいた。無償だったこともあり、これをきっかけに補助金の獲得に向けて動かれた企業さんが多かったということで、一定の効果があったものと思う。今年度限りだが、ものづくり販路開拓サポート事業というこ

とで、対面取引が減少している製造業の方を中心にオンラインと対面を併用した商談会を岡山県産業振興財団さんのほうに委託をして行っていただいたもの。製造業の方に向けた個別商談会、企業のPR動画の作成を委託していて、10社程度と思っていたが、実績としては8社。発注企業は24社を選定していただいている。またPR動画についても8社のかたに作っていただいた。こちらはもうホームページとか商談会、展示会で使っていただいている。また製造業の、金属加工ではないが地域製品のバイヤー紹介もこの中で委託をしている。こちらなかなか人材不足で、新しいところに手が回らないところがあったようで10社程度を想定していたが、支援対象として実績は2社。それから、原油価格高騰対策支援事業。今年度当初、原油価格が急激に上がったところの支援ということで、運送業者の方へトラック1台あたりの定額補助を行った。エネルギー価格高騰対策支援事業を準備中としているが、すでに対象の事業社さんには今月の頭に案内を送付している。こちらは補正を組んで、電気代とかエネルギー価格の高騰が激しいということで市内の事業者さんに支援金の交付を緊急で講じている。対象としては令和4年度の法人市民税均等割が附加されている事業社さん。今まさに今月いっぱい申請期間ということになっている。電子申請でなるべく迅速に申請いただき、手続きが完了するように工夫をして行っているところ。こちらの実績は次回報告させていただきたい。企業誘致の新しい視点ということでワーケーション事業を新しく実施をしている。若干、前回の会議でも触れたところで、第1回目を10月に行い、第2回目として2月の15~17日でツアーを実施する予定。法人向けと個人向けの2種類を実施していて、法人向けは今年度大きな誘致となったパワーXとの交流だったり、商工会議所の青年部の皆様、市の職員とのワークショップなども今回行うということで、コミュニティ的な部分にも力を入れているのが特徴。またこちらの実績だったりニーズ調査だったり報告したい。いづれにしても今後のIT関連の企業の誘致を視野に入れたソフト事業ということで、これから随時促進していきたい。この先は、令和5年度の産業振興の内容で、もちろんまだ3月議会前ということで承認をいただいていない内容なのですが、委員さまには先にお知らせしたい内容。特徴的なところとしては、最近いろんなところで聞かれる人材の確保、人材不足、生産性を上げていく部分も含めて、ステップアップ支援事業だったり、オンライン相談窓口というのが入っていると思うが、そういったところに向けた支援ができればと考えている。また、魅力ある職場環境づくりの中でも新たな枠組みで生産性の向上のためのデジタルや機器の導入支援という枠組みも追加していきたい。企業立地雇用促進奨励金は実績ゼロだが、継続する。なかなか工業用地が少ない中で用地取得を必要としないIT産業等の誘致を目指したもので、ワーケーションというソフト事業を進めているが、IT産業が空き工場や空き店舗なんかを利用する際に幾ばくかの支援としてIT産業企業立地奨励金いうものと、地元の人材を育てていくための在宅ワークセミナーを考えている。ワーケーションツアーについては、ブラッシュアップして来年度も行いたい。雇用対策についても、マリン玉野産業フェアについて宮原委員からも声をいただいているところだが、来年度野中で出来る仕組みとして新しい形でやっていきたいので予算を計上。連携中枢都市圏事業

として、玉野市のみならず岡山市とかと横連携で合同企業説明会などに参加して人材確保に繋げていくため玉野市からは3社程度出店枠を確保しようと考えている。インターンシップ、高校生のオンライン合同企業勉強会についても来年度ブラッシュアップしていく。たまの企業ガイドが今は紙ベースだが、電子化することでより効果的な情報発信につなげていきたいと考えていて、電子書籍化してクリックしたら動画が見られたりホームページにリンクしたり、若い世代の方に則した形を考えている。

#### 船倉会長

ワーケーション事業、結構な予算を投入されていらっしゃると思うが、こちらの費用対効果はあると思っている。メルカリさんも来られていたということで、新しくイノベーションが生まれる感じがした。ワークショップは、工夫次第でいろんなやり方があると思うので是非とも頑張ってください。

議事が最後になるが、玉野市工業振興の基本方針の見直しについて引き続き玉野市さまをお願いします。

### (3)「玉野市の工業振興に係る基本方針」の見直しについて

#### 藤原参事 説明

基本方針の概要ですが、前回示したものと大きな変更はなく、スケジュールのところは早く回収していきたいと思っている。見直しをしていきたいところが、前回の委員さまからの意見を踏まえて、期間の部分の現行が5か年計画だが時代に即していなかったり、変化が激しい中でもっと短いスパンでローリングしていくべきと意見をいただいた。そういったところで、3か年計画として形としては圧縮していったらと事務局としては考えている。先程の指標のところでも申しましたように可能な限りタイムリーな把握ができる指標を考える必要があるので模索したい。統計から出た数字というのは補助的な指標で、私どもでもう少しタイムリーに把握できるもので、どういった影響があったかを検証できる指標。アンケートそのものについてだが、こちらは市内の工業振興に係る中小企業者で前回178社だったが、今回については280社くらいを中心に考えている。調査方法について、少しでも迅速に集計ができるように電子申請をメインにしていきたいと考えている。ただ必要等に合わせ訪問等においてヒアリングもしていきたい。回答期限は6月30日。その後、迅速に集計をし、来年度9月頃に開催する工業振興会議の中で結果の報告なりを共有したい。それを踏まえて新基本計画の案を協議していきたい。来年の1月の工業振興会議を目指して、3か年計画の新基本方針を示し、その後、市議会のほうにも提出したい。アンケートの設問としては、今特に全国的に人材の確保が深刻な問題ということで、ここについては深掘りして調査が出来たらと考えている。人材不足の現状を詳しく確認することで今後の施策に繋げていきたい。各種補助金の使用状況という設問を設けている。市、県、国の補助の活用も少し深掘りして確認することで、今後の制度検討の資料としたい。これからのDXについてこれ

から必須なところであるし、単純に自社の DX だけでなく IT 技術を取り扱う他社との連携で新たなものが生まれるので、これから取り組むべきところなので質問項目として追加で増やしていけたらと考えている。お堅い設問だけではなくて、事由記載にはなるが、玉野という街について 10 年後、20 年後どうなっほしいか夢のある将来像に繋げるために、そういったところのニーズ調査というところが事務局からの提案。リストについては、食品だったり製造業でも工業から少し外れているところにも、今回含めて送付すべきかどうか委員さまからの意見をいただきたい。

磯野さん

補助金を何件出したとか話があったが、これの追跡調査をするわけにはいかないのか。何年前に補助金をだして頑張ってもらった。1 年経ったら、3 年経ったらこうなっているというのを、分かりやすい形で出してくれたら、そしたらうちもとなるのではないか。今ここで、何件あったどうだったという話を聞いても、役に立ったのかどうかほぼ分からない。せっかくお金を出したのなら、その企業がどうなったかの資料や情報を出していただきたい。全般的にそうだ。分からないから、質問してくださいと言われても、こんな質問しかできない。

津田課長

ご指摘、ごもっともです。国の会計検査員からも国が景気対策にたくさんお金を使っているが、その後のフォローアップが出来ているのか。どういった効果があるのかきちんと検証してないのではないかとこの指摘もあった。その後、どういった対応が出来るか。例えば、起業支援で初めてお店を立ち上げようという方は 5 年間追跡調査・ヒアリングはさせていただいているが、件数が少ないから追跡が可能。国の制度含めて、ものすごい数のものはどういった追跡が出来るか、国のほうから指導が入ると思うので方法は工夫を考えたい。

磯野さん

上手くいっているところを伝えてくれれば良いと思う。玉野市で行うわけだから、企業を見ていたら上手くいっているなどか、そんなに難しくなく分かるのかなど。上手くいっていないところが、上手くいっていない理由はこうだからとか言っても仕方が無い。

津田課長

成功事例ですね。こういったアンケートをするので、どれだけ補助金を使ったのかも再度確認して、上手くいってそうなところに秘訣を聞かせてもらう。

宮原さん

この前発表された市の新たな総合計画がありますよね。工業振興もそこと連携している

ととらえて考えていけばいいわけですね。

藤原参事

はい、その通りです。こちらの基本方針とか私どもの施策も連動している。

宮原さん

具体的な施策には人材確保・人材育成が出てきていて、そのあたりは心強く思うが、出された総合計画の中ではあまり強調されていないように感じた。総合計画のほうで、もっと強くあげていただいたほうが商工さんの活動もしやすくなるというか。やはり玉野地区の我々企業にとっての課題は、人材確保・人材育成、玉野の地域全体の活性化と考えている。総合計画を見ても一生懸命探さないと、人材のことが出てこない。去年くらいまで商工さんが言われていた地域の人材は地域で育てるというキャッチフレーズみたいなのがあったが、そこらは今も変わらないか。我々が動くときに、そのフレーズを使っていいのか。

津田課長

総合政策については、今、パブリックコメントの段階でまだ完成ではない。今こういうことを考えているということで、広く意見を募集している。その中で、総合計画というとしても玉野市全体の話となるので商業工業だけを手厚く書けない部分もある。ですので基本的な方針として、産業の振興ですとか継続的な発展という項目の中で、人材の定着とか確保という項目は用意させていただいている。先程おっしゃられた、地域の人材は地域で育てるという観点で、どういった標語を作るかという、もしかしたら新しいものになるかもしれないが作っていただくのは結構です。高校生を3年かけて育てるということで、学校の先生とも話をする中で、1年生でまず知ってもら。オンラインとかでいろんな企業とやりとりをして興味を持っていただく。2年目はインターンシップで実際に現場に行き仕事とはこういうものだと感じていただく。3年目はマリン玉野産業フェアのなかで本気で就職を考えてもらう。3年生になって急に仕事がどうか考えてもなかなか。3年かけて育てようというのを今年度からやってみようと思っている。先生とも話したが、高校生で就職と名があると親御さんの意見がどうしても強いので、どう親御さんと一緒に考えてもらえるか工夫が必要。そういった分かりやすいキャッチコピーもだが、せっかく高校生全員にタブレットを配っているの、タブレット端末をどんどん使って知っていただくことで1年生からどんどん地元企業を知っていただく方法を模索したい。

宮原さん

ぜひ強力に進めてほしい。マリン玉野産業フェアは、申し訳ない。コロナの関係で、学校も企業もやりたいが、なかなか実行が難しいということで3年間やれずじまい。だが最近、中学校や小学校の企業見学が学校サイドでかなり動いてきているので、高校3年がもちろ

ん大事だがそのもう一つ前の段階から職業教育・キャリア教育を連携していければ。そのためにも、商工観光課だけでなく教育委員会にも関係のある学校と企業と連携プレー。インターンシップ自体も、大学生だけでしょうけど企業の評価が採用にも直結していく時代にもなっている。これからインターンシップの取組を考えていただく中で、少し違ったものを。期間を長く取るとか。これは市のほうだけでなる話ではないのは承知している。それから3月15日の件。これからはオンライン・電子化の時代なのでそういう方向で取組むべきだと思うが、企業によってはなかなかそのIT部分への取組が難しい企業さんもいるのは事実。トラック協会の理事会なんかでも意見を聞いていると、必ずしも全員が対応できる力のある企業ばかりではないので、そのギャップというか。雇用開発協会でお世話をしている私の悩みなので。メンバーである以上は、知らないとは言えないので、そのあたりの指導もいただけたらと思う。今度、パワーXみたいな違った業種が出てくるが、基本的には玉野市の地域全体が良くなっていかないといけないので。新しいものが生まれるというのは、ひとつのポイントになってくるだろう。基幹産業の三井さんも、構造改革でひとつの目処を付けられて4月1日から新しい体制で打って出る。私が子どもの頃は、小学校の社会の教科書に造船の街玉野という言葉がでていたような産業紹介ではあった。三井は、あいおいを吸収合併されるのでこれから三井さんがリーダーシップをふる時代になると思うし、なってほしい。それによってもう一度、玉野が舶用機器のメッカと言われるようなそういう街に。これはパワーXさんとの相乗効果で、もう一度ものづくりの街だと全国から見てもらえるようになってほしい。三井さんの動きが大きなポイントになってくると思う。

石部さん

例えばホームページとか動画を作って、アクセスがどうだったとか、動画をどう活用したのかはちゃんとすべき。アンケートの黄色いところ、これは入れた方がいいという話なのか、削除するのどちらですか。

津田課長

できるだけ幅広くご意見をいただきたいので、純粋に製造業と名のつくところをリストアップすると食品製造業まで入ってくる。せつかくの場なので、ご意見をいただきたい。

石部さん

邦美丸さんは、1度相談いただいたが、すでに商標登録もして海苔の中でもいいところだけを使ってるということで、すごい成功されている。つい最近だと、ドラマでファーストペンギンがありましたよね。あれの関係があるような会社なので是非聞いてみたらどうか。

津田課長

基本的には、海苔の業者さんは漁協を通じて胸上のブランドでされているが、この方は独

自のブランドでされていて、玉野市の特産品にも認定されている。お話を聞くのは良いが、工業になじむかどうか。

吉川さん

工業になじまないとしたら、水産業は水産業であるんですか。

津田課長

農林水産課がある。直接、今行っているわけではないが、農林水産課は農林水産課で計画みたいなものはある。それとは別に、邦美丸さんでいえば特産品としてこちらに関わりがあるものですから、販促を含めて小売事業者さんとしての話をさせていただくことはある。

船倉会長

私はもともと行政側なので、現状の課題を踏まえての計画にせざるを得ない。しかし最近、各地でありたい未来を創造してそこから逆算して施策を考えるという自治体もだんだん増えてきている。ビジョンをどうやってつくるかという、行政だけで作るのではない。住民の方であったり、異業種の方の意見を踏まえて、なりたいビジョンをまず描いて、そこに至るまでのシナリオがたくさんあると思う。工業振興計画というのは、このシナリオのひとつにすぎないと思う。あるものを議論するのではなく、ひとりひとりが大切にしているものを。

津田課長

差し支えない範囲で、今の状況をお願いします。

藤原さん

月に1回理事会を開いている。求人とか人材育成とか人材確保の関係で、いろんな事業を考えてくれているというところに絡んだ話がよくでる。募集してもなかなか人が来ない。我々の工業団地の会員は、各社とも仕事はある。幸せだが人が入ってくれないから、継続していけない。将来を心配している。明るいビジョンが建てられない。2代目、3代目と皆さん事業承継については考えられているみたいで、そのへんはある程度うまくいっている。パワーXさんも来られて、玉野市さんは非常に嬉しいんでしょうけど、我々は雇用の関係で取られるという心配も若干あるが、自社努力が必要。玉野市の中の一企業が近郊の中の求人に行くイメージが悪い。そのイメージを、我々は福利厚生、給料を上げながら、求人に対するイメージアップを図らなければいけない。企業城下町なので、企業も頑張らないといけない。我々は、イメージを発信しづらい。口コミでならなんとかなるかもしれないが、マスコミにうまく動いてもらいながら、玉野市で就職したら楽しいらしいとかそんなイメージが近郊に広がることによって求人活動もやりやすくなる。そのあたりの知恵をだしてほしい。

大倉部長

市のイメージアップ、最近で言う瀬戸内国際芸術祭とかで若者が大勢いらっしやったり。そんな中で、今回、ホテルが新しくできたり、少しずつではあるがイメージアップは図られている。パワーXさんが来られたのも、土地があったというのではなく瀬戸内の風光明媚な景色のところには是非企業を持って行きたいという伊藤社長の考えで、まさに現代アートの聖地になっている直島が目の前にあって、瀬戸内国際芸術祭に参加している。良いイメージの発信を商工観光課で広告宣伝費もしっかりとって、より玉野市に移住定住も良いというところをしっかりとっていききたい。ご協力お願いします。

宮原さん

パワーXさんも蓄電池だけではなく、まだ表に出ていないいろんな施策をお持ちではないかと期待をしている。私の夢は、玉野がものづくりのメッカ。恐らく海外のいろんな情勢から海外へ出て行ったものが、日本へ戻ってくるのではないかと。いろんな労働時間の制約だとか、人材の状況も言われたとおりの状況なので。我々の仕事は平坦に流れるような仕事じゃないので。労働時間数に規制がかかっているのは本当に正しい道なのか、疑問を持つところ。働きたいときは働けば良いし、用事があるなら自己管理してというのが当たり前じゃないかと思う。そんな中で、絶対、三井さんは復活してくると思うし、パワーXさんも、施策で玉野市がよみがえるのではないかと期待している。

磯野さん

毎回言っているが、高校を出て玉野に残る人が40%いないとか、玉野に住んで働く魅力が無いということだが、玉野って本当にすごくいいところですよ。パワーXさんが日本中探して、玉野が良いよと思ってきてくれた。三井造船さんも大正6年に日本中探して船を作るのにこんなに良いところはないと来てくれた。そういう玉野に住んでいるが、なぜかイメージが悪いんですよ。仕事がないことはないが、今の若い子、高校卒業した子、大学卒業した子が玉野に集まってここで仕事をしていろんな面白いことがある街だと感じられるようにしていただきたい。最初は、住むところが無茶苦茶安くあるとか、市民税半額だとか。取っつきやすいなにか目玉を作っていただければいいかと思う。昔、雇用促進住宅というのがあって、狭いが安いというのがあった。今の子達はそういうのは望まないでしょう。玉野に住んだら住宅補助が出るとか、何か判りやすいもので玉野に住んでいただけたら、これだけいいところなので、住んでもらうことが理解をしていただく第一歩。最初の選択肢の中に入らないというのはイメージの問題で、働くところがあんまりないような。ものづくりの街ですから、暑かったり寒かったりするんですよ。私も建設業なのですが。結構、体もきつい。でも、出来たらとっても嬉しい、満足感がある良い仕事だが、今の若い子達にはなかなか伝わらない。ものづくりの街玉野というのを、もっと楽しそうな雰囲気で作ってくれたら。しょうがないではなく、楽しいイベントとかそんなことから始めないと。

前田さん

就職者のうち玉野希望が40%以下というのは、なかなかの数字だと思う。磯野さんがいったように魅力の発信とかいろんな事があると思う。三菱重工の社長とも話をしたが、何をするにも非常に良い場所だと言ってもらった。三井さん、パワーXさんを含めて、本当に良い場所だと思います。県外から作業に来ている人も、みんな良い場所だと言う。できればここでずっと働きたいという方もいる。ただ住む場所の問題、三井さんの仕事量の問題、いろんな問題があってなかなか定着にいたっていない。情報発信についても、年初、三井さんをお願いした。そのあたりの企業努力は必要だと思いますし、そこで働く僕らの努力も必要。そうしていけば少なからず魅力が出てきて良い方向に行くと思っています。この40%を上げていかないと話にならないのかなとは思っている。ワーケーションで県外の方、いろんな企業の方が来られて、彼らの情報発信能力はとんでもない。ココカ古書店の方々含めた移住者の方もたくさん来られていて、彼らの情報発信能力も素晴らしい。情報発信能力の素晴らしい方に、どんどん情報発信をしていただく。ものを作っている人間は、しっかりしたものを作る。造船のまちの復活は、非常に大切と思っている。三菱重工さんが非常に仕事量を持っている。修繕の船もたくさん来る予定も立っている。エンジンもどんどん新しいエンジンに替わって行って、それを作り上げるのはこちら側の仕事。しっかりしたものづくりをしていきたい。

津田課長

今回いただいた意見をもとにアンケート作成に移りたいと思う。それをもとに基本方針の素案の作成につなげたい。次回は9月を予定している。